

第6回会議までの主な意見集

数ある公共施設の中でも、特に緊急度が高くかつ重要と思われるものとして庁舎やこども園、学校について、あえて個別具体的な公共施設を対象に議論

①役場庁舎

②こども園・保育所

③小学校・中学校

1. 役場庁舎

与謝野町庁舎統合検討委員会（答申）

平成24年11月7日

- ①将来にわたって現状のままを望む意見はなく、「**庁舎の統合を図る**」ことには**異論はない**
- ②町から示された総合庁舎を加悦庁舎とし**早期に統合する案は見直すこと**

**現在の分庁舎方式を当面継続し、
将来しかるべき時期に、町の中心地に新総合庁舎を建設する**

**現在の分庁舎方式を当面継続し、
将来しかるべき時期に、町の中心地に新総合庁舎を建設する**



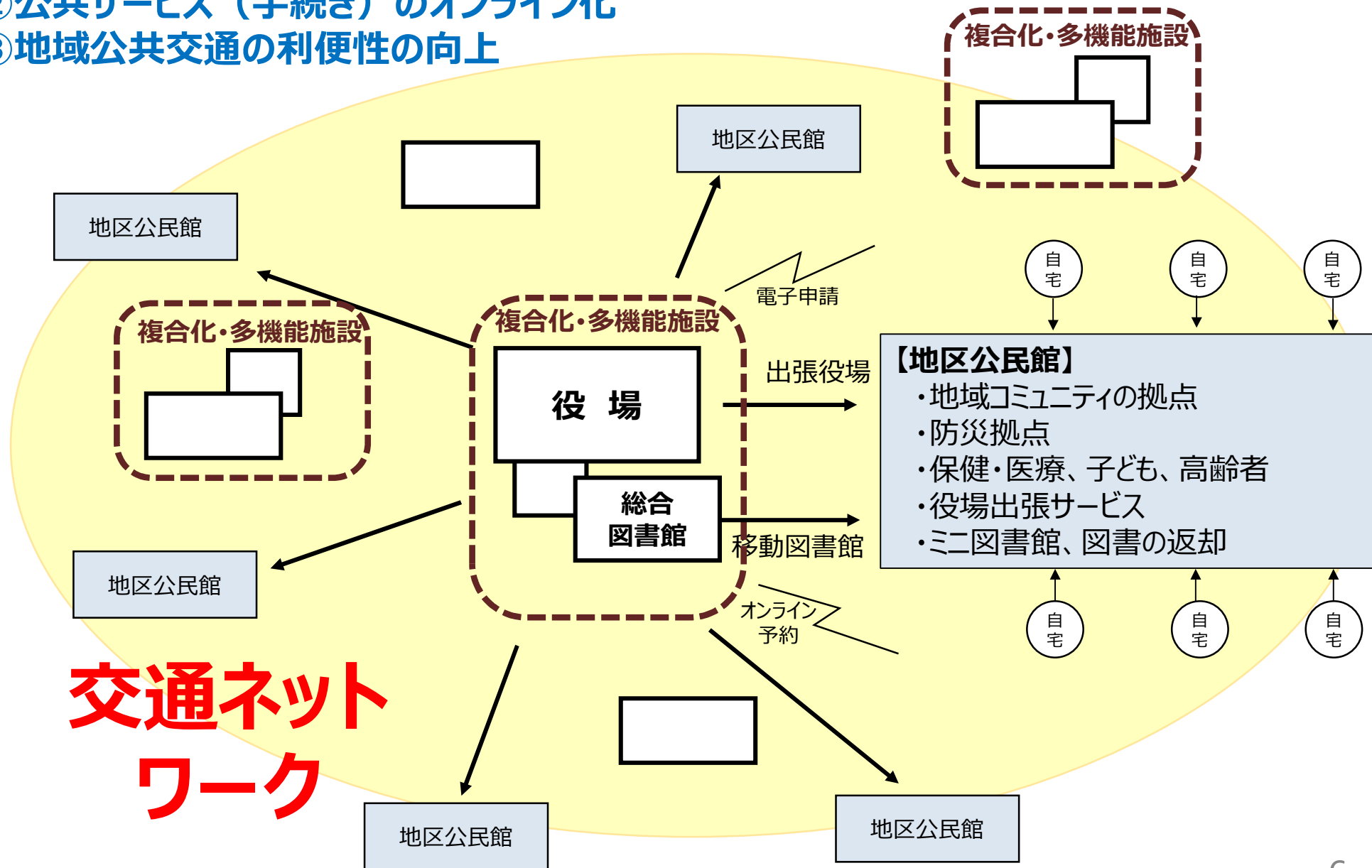
10年経って当面継続しというその「**当面**」という時期はもう過ぎたと普通に解釈できる。

また、今が将来しかるべき時期ではないと言えず、もう既にその**タイミング**に来ていると言っていい。

第3回会議の主な意見

- ・財政のことを考えると、当面、既存庁舎でいくのが良いのではないかと。新庁舎をつくるよりもっと大切なものはある。
- ・3庁舎を残して地域性を生かしたまちづくりを展開してはどうか。
- ・分散型は旧3町意識が残る事に気を付けなければならない。
- ・100%オンラインを目指して役場に来ない宣言をしている町もあるなど、ありとあらゆるものがオンラインでもできるようになる。
- ・小学校区程度の単位（例：地区公民館）に「（仮称）まちづくりセンター」を設置し、住民に近いところで、相談業務や職員への取次ぎ機能を持たせることによって、サービスを上げるという方法もある。
- ・新しく庁舎を建て、玉突き方式によって、本来維持や耐震に費用を掛けなくていけない施設を、旧庁舎に統合することで財源を浮かすことも一案。
- ・最終的には財政の問題を無視できないため、財源を一定用意するために時間がかかる。このことの影響も考えておく必要がある。

- ①役場庁舎は一つにし、地区公民館の機能を充実
- ②公共サービス（手続き）のオンライン化
- ③地域公共交通の利便性の向上



委員長まとめ

- ①答申で示された合意事項というのは重く、庁舎を統合していくという考え方そのものは重く受けとめなければいけない。庁舎は町にとって一つの象徴でもあり公共施設全体のマネジメントを牽引していく案件である。
- ②若い人たちにとってもここで働きたいと思えるような職場環境を整える、住民が訪れたいくなる観点も重要
- ③既存庁舎の中で一つの庁舎に統合していく、少し時間はかかるかもしれないけれども新築していくという大きな2つのアプローチ
- ④統合したことによって今までの利便性が失われたり、サービス水準が低下しない努力をしていく（よさの地域デザイン会議で描かれたものに近付けていく）
- ⑤草案を作成し、これをたたき台にして住民の意見を聞き決定するプロセス

第4回会議の主な意見

- ・職員さんの思いは統合の方向にかなり強く傾いていると思う。
- ・少なくともこの中で言えば、加悦庁舎の環境がベターと分かってきたので、元気館のあり方も含めて、どのような使い方や総合庁舎を作っていくのかについて議論を進めていくべき。
- ・①職員の働く場としての環境、②職員同士のコミュニケーション、③住民に対するサービス、の3つで検討してはどうか。
- ・庁舎のあり方そのものについては、それを利用される住民の意見を聞くべき。
- ・住民の皆さんと一緒に継続的に知恵を絞っていきましょう、というメッセージを、この委員会としても出していくべき。
- ・庁舎統合の要件を出してもいい。

第4回会議 委員長まとめ

- ①誰にとっても快適な環境をしっかりと整える。
- ②庁舎が持つべき機能を確保、あるいは向上させる。（オンラインとオフラインを有効に活用）
 - ・今まで分かれていたことによって欠如していたコミュニケーションを一度、再結合させるという視点が大きなキーになる。
 - ・住民が恐らく抱えるであろう不安材料を、あらかじめできるだけ取り除いてあげることが大事（例：FAQの作成）

統合していくという方向性については委員会としてはほぼ見解の一致が見られた。また、職員の意見を伺う限り、その方向性が大勢であるということも一定確認できた。

第5回会議の主な意見（役場庁舎）

- ・①オンライン化、②複合化、共用化、周辺施設との連携による財源を生み出す仕組み、③小学校区単位程度に窓口を置く等の分散化、④地域公共交通、⑤財源、⑥空き庁舎の活用
- ・町民に理解されるように、庁舎を統合する理由を整理すべき。
- ・将来に向かって計画的に積立をすべき。
- ・職員にとって働きやすい、住民にとっても便利、複合化・共用化といった機能が、加悦庁舎でも実現は難しいのではないか。
- ・小学校やこども園を優先すべきで、庁舎は後になる。
- ・町のシンボルとして新しい庁舎をつくるべき。
- ・③を選択するということは、向こう30年程度はずっとここでいくということになる。
- ・民間資金を活用する方法もある。（PFI）
- ・①の可能性は探ってみるべき。
- ・住民サービスと職員の職場環境を考えるとやっぱり①は外せない。

第5回会議の主な意見（役場庁舎）

- ・財政面の制約が強い
- ・大規模な改修にしろ、建て替えるにしても、時期を分散しないといけない
- ・時代に合った機能を有する庁舎とすることは、贅沢なことではなく、当たり前のこと。
- ・PFIを活用した新庁舎建設の可能性も考える。
- ・この地域の中で何かが変化しそうだというアクションが見えることが大事
- ・この町に希望が持てる答申を出したい。



継 続 協 議

2. 保育所・こども園・小学校・中学校について

(1) 公立幼稚園・保育所（園）

与謝野町において運営している幼稚園、認定こども園、保育所（園）の8園については、地域住民の意見を聞きながら、ニーズに合ったサービスを検討の上、「幼保連携型認定こども園」の整備を計画的に進めていきます。

- ①加悦地域の3保育園の統合による認定こども園
- ②野田川地域の1幼稚園と3保育所の統合による認定こども園

(2) 小学校

●適正規模

○小学校の配置については、特別支援学級を除いて、全校 1 2 学級程度、学年 2 学級程度、**1 学級 2 5 人～3 0 人**を「**適正規模**」としますが、次の 3 点を基本として 1 学級あたりの人数を振り分けて算定基準とします。

- ・ 1 学級あたりの上限を 3 5 人とします。
- ・ 2 学級以上の学級を有する学年においては、過度に小規模な学級が編制されることのないよう、算定上の下限を 1 8 人とします。
- ・ 学級規模が大きくなるに従って、上限を 3 0 人に近づけるよう、段階を設けます。
 - 1 学年の学級数が 1 学級の場合 1 ～ 3 5 人
 - 2 学級の場合 1 8 ～ 3 4 人
 - 3 学級の場合 2 3 ～ 3 2 人

※上記の算定基準は、京都式少人数教育の学級編制に準ずる考え方です。

○「**適正規模**」が実現し得るタイミングにおいて、**岩滝地域、加悦地域、野田川地域のそれぞれに 1 つの小学校を配置することとし既存校舎を活用します**。岩滝地域は岩滝小学校、加悦地域は加悦小学校、**野田川地域は市場小学校とします**。ただし、通学する小学校の変更は 1 回を超えないこととします。

(2) 小学校

●統合時期

平成34年度を目途とする一斉再編ではなく、再編が可能なエリア（地域）から速やかに再編を進めていきます。

加悦地域においては、平成31年度から加悦小学校において教室数が収容可能となりますが、与謝小学校の1学年の児童見込数が2人となる平成33年度に加悦地域内における3小学校の一斉統合を目指します。

野田川地域においては、平成40年度以降でないと教室数が収容可能とならないこととなりますので、今後の児童数の状況変化等を踏まえて、統合時期を検討します。

(3) 中学校

1学級30～35人、1学年3学級以上の学年編制と校区は複数の小学校という検討委員会の提言及び少子化傾向を踏まえると、将来、加悦中学校と江陽中学校を統合し、1中学校とする必要がある。

第4回会議の主な意見

- ・現在の保育所に統合は難しい。建て替えが必要。
- ・小学校の統合を先にして、空いた小学校をこども園として活用してはどうか。
- ・こども園の新設を急ぐべき。
- ・小学校跡地に建設することも選択肢。
- ・統合校（市場小学校）の老朽化が進んでおり、長寿命化も踏まえて全体を総合的に見る必要あり。
- ・最近、文科省が提案している「低学年部分を分校として存続させる」ことについても一考してはどうか。
- ・学校を中心とした他の公共機関との複合化、共用化によって、児童生徒や地域住民の多様な学習環境の拠点の創出、公共施設の有効活用、財政負担軽減を目指してはどうか。

第4回会議の主な意見

- ・小学校園庭は夕方3時半以降ぐらい使わないので、**預かり保育を小学校で預かってはどうか。**
- ・**ICTを活用**すれば3つの小学校で同じ授業が配信できる等、**統廃合しない形**も考えることが出来る。
- ・小学校が**無くなることは大変なこと**。もう一度戻っていろいろ考えなければならない。
- ・特例校にして**研究開発学校**にしてはどうか。
- ・民間、地域、その他の使い方にしても、**小学校の建物が何らかの形で使われている**ということは、地域にとってすごく重要な要素である。
- ・**新しいこの地域の生き方としてのモデル**を野田川で実現する、という方向性でやれるなら、やるといいのではないか。

第4回会議 委員長まとめ

- ①学校のあり方、学校施設のあり方と**一体的に議論**しなければならない
- ②公共施設の中でも学校というのは、その地域の未来を左右する公共施設であるという意味で、ずいぶん**と意味合いが異なるもの**、ということをしっかりと認識した上で議論しなければいけない。
- ③**少人数教育の良さは間違いなくあり**、新しい取組に乗っかることも選択肢の一つとして検討することも価値があるが、**少人数教育にもレベルがあり**、集団での学びというところの最低限のラインを越えてしまうことも認識しなければいけない。
- ④学校あるいはこども園に通わせる**保護者の皆さんの声**をしっかりと聞かなければいけない。
- ⑤働き方が変わっている等、**時代に対応するような方向性**を見出していかなければいけない。

第5回会議の主なご説明内容

(教育委員会・子育て応援課)

- ・町内の小学校、加悦中学校を除く2つの中学校は、昭和40年後半から50年代の建物で耐用年数が近づいている。
- ・その当時に比べ新しく必要な教室がたくさん増えている。
(PC教室、English Room、支援の状況ごとの教室等)
- ・市場小学校にそのまま再編するためには、長寿強化、増築が必要
- ・こども園についても、老朽化に加え、未満児の預かりを想定していない構造を改造してきたため、部屋数やスペース的に狭く、今の時代の保護者のニーズに合った建物ではない。
- ・加悦中学校と江陽中学校の統合のタイミングについては、議論されていない。
- ・文科省が示した新たな選択肢[※]についても、議論されていない。

第5回会議の主な意見

- ・ところてん方式で、**空いた学校を活用**することもアイデアとしてある。
- ・**野田川庁舎を解体した跡地の活用**も選択肢。
- ・全ての小学校が築43年、44年ばかりで、そこに手を入れ始めると、ほぼ新築に近いようなお金を投じなければならない。**町が持っている土地を活用して小学校問題**の一つの出口を考えていくことも論点の一つ。（機能の複合化含む）
- ・学校を建てるとなると**相当の面積が必要**であり、場所が限られてくる。
- ・実際に加悦小学校へ**統合してみて、よかったという声が多数**。
- ・少人数教育は重要ではあるけれども、社会性を身につける、いろんな人と友達ができるということが重要。**ある程度の人数を確保しながら、一つの統合化されたものを作っていく**という方向性が必要。
- ・まず子供達にとって大切な学びの場をどのように整備するかということがあって、次に学校という施設のあり方を**考える順番**になるのではないか（先に箱があるのではない）

第6回会議の主な意見

- ・まず子供達にとって大切な学びの場をどのように整備するかということがあって、次に学校という施設のあり方を考える順番になるのではないかな。
- ・野田川地域のこども園を早急に進めるべき。
- ・ハザードマップで指定されているところへの新設は避けるべき。
- ・江陽中学校を空けて、こども園、放課後支援、公民館、図書館が入る複合施設への改修費に充ててはどうか。
- ・地域性を崩すことは厳しい、というご意見であった。
- ・認定こども園は遊びを通した学びの場、学校の教育の場とは若干考え方が異なる。
- ・子供の育ちを考えた時の適正な規模は、地域ごとに1園設置という方針。
- ・加悦中学校と江陽中学校の統合のタイミングや文科省が新たに示した選択肢についても、教育委員会で議論されたい。
- ・町民の方々の議論の機運を高めて行かなければいけない。
- ・キーワードは町をどこまで魅力的にするかの信念と覚悟。

第6回会議の主な意見

- ・候補地ごとの要件整理や財政的な情報を出していただかなければ、議論はこれ以上進まない。
- ・この委員会で「場所をどこにする」という議論をすることは難しい。
- ・この委員会にどこまでのことを求められているのか。
- ・全体を見通した中での公共施設の統廃合、廃止等をもう一度考え、実施計画の見直しをやっていくことが大事である。
- ・全体を見通しながら、お金をどのように使っていくのか、についても勉強していく必要がある。
- ・自主的に年度答申することを提案する。

第6回会議の主な意見

- ・全体最適を考えなければいけない立場にあり、公共施設再編の全体像や基本的な考え方を示していくことが一番の役割と考える。
- ・ただし、それだけだと非常に抽象度の高いものに終わってしまう可能性があるため、緊急度が高くかつ重要な公共施設については、できる限り具体的でリアリティのある選択肢を示す。
- ・こども園のあり方をそれ単独で考えるのではなく、これから学校をどこに・どのように建てるのかということと並行して考えなければ、それ単体で考えているのでは限界もある。
- ・どこかのタイミングで1次答申という方合いで一旦まとめる。
- ・時間をかけ過ぎるとその間にまた状況が変わり、議論の前提が変わってしまうため、時間軸を考えながら進める。